

# 三遊亭らん丈 後援会会報

## 『らん丈、講師となる』 三遊亭らん丈

センターがあります。

そのひとつ、文京学院大学を母胎とする生涯学習センターに、二〇〇五年度の講師としてらん丈が、講座を担当するところが決まりました。

この文京学院大学は、二〇〇五年度からの男女共学化に伴い現校名に改称しましたが、以前は文京女子大学という名称だったので、その校名をご記憶の方のほうが多いかと思えます。いずれにしろ校名の通り、文京区にある大学です。

らん丈が担当するのは、「文京生涯カレッジ1年コース」における一般教養科目です。そのパンフレットに載せた文言を以下に転載します。「講師のひと言」というタイトルによるQ&A方式のものです。

Q. 外国の方も、落語を聞いて笑うことはありますか？

東大総長）が「日本の初等教育の最大の

問題は学力の低下ではないと私は思っています。より深刻なのは、勉強への意欲の低下です。」と指摘しており、中山文科相も「勉強する動機が弱くなったことを憂えている」と、二〇〇五年一月十八日記者団に語っていました。

それを尻目に、熟年世代の旺盛な学習意欲は近年つとに強まっているのです。その学習欲の主な受け入れ先として、各種カルチャーセンターや、少子化の影響を受け、十八歳人口が減少しているにもかかわらず、増え続ける大学が生き延びるために講じる経営多角化の一環として、陸続として開設されている生涯学習

英国労働党のブレアは首相に就任する際、「真つ先に改革しなければいけないのは、一に教育、二に教育、そして教育だ」と演説したのはあまりにも有名な話ですが、たしかにいまの日本の教育も、様々な面で改革しなければならぬ、そう考えている方が非常に多いと思います。

たとえば、ゆとり教育に反対する意見が澎湃として起こっていますが、かといって、かつて批難されていたその対極にある、詰め込み教育に戻すことに賛成する意見が大勢を占めたわけではなく、有効な善後策への国民のコンセンサスは、まだまだ醸成されてはおりません。

有馬朗人（元文相・科技庁長官、元

A. むしろぼくは、日本人が落語を聞いて笑わない方が心配ですね。そうになると、食いつぶれますから。これがあながち、冗談ではないのです。つまり、国際化の波に吞まれてしまい、根無し草と化している日本人が増えているのが問題だと、ぼくは思います。たとえば、アメリカ人に「落語」とは何か、と訊かれて満足に答えられる若者が、いったいどれほどいるのでしょうか。

逆説的ですが、日本とは何かを先ず知る、それが国際化に対応する第一歩だと、ぼくは信じているのです。

こんな話があります。いまや新世代ジャパンモダンの旗手となった建築家の隈研吾は、ニューヨークのコロンビア大学に留学した当初、だれも相手にしてくれなかった、といいます。

そこで隈は打開策として、ロサンゼルスから大枚をばたいて畳を買い入れ、日本からは茶道具を送ってもらい、経験も無いのに見よう見まねでお茶を点てたところ、いままであれほど疎遠にしていた他国の研究員が、隈のアパートに集まってくる、たちまちのうちに打ち解けたそうです。隈は痛感しました。日本文化の

偉大さ、を。

このように、自国の文化に疎い人間は国際社会では、アイデンティティが確立されていない市民と看做され、馬鹿にされてしまうのです。

今回の講座でぼくが担当するのは全三〇回のうち、「日本の文化」三回分です。

内容は、一「落語は日本語だから、生まれた」、二「最も安い娯楽、落語の魅力

## 『日本人と笑い』朝日新聞社の調査結果

去る十二月五、六日の両日、全国三千人の有権者を対象に、朝日新聞が面接方式によって、「日本人と笑い」に関する国民意識調査を行いました。

その結果は、「朝日総研レポートA1 R21」二月号に掲載されるようですが、同号は二月十日発売なので小稿執筆時未発売につき、一月三日付朝日新聞朝刊に載った関連記事をもとに、感想を書き連ねてまいります。

「あなたは最近、よく笑っていますか」との質問に「よく笑っている」と答えた人は、二十代で八〇%、三十代で七四%と他の世代に比べて抜きん出て多く、笑

力」、三「あなたも、落語を演じてみませんか」出囃子に乗って、いざ高座へ」という構成となっています。

ご興味をお持ちになった方はどうぞ、文京学院大学生涯学習センターにお問合せください。【URL】<http://www2.u-bunkyo.ac.jp/ext/>電話番号は、03(5684) 4816です。

御受講を、心からお待ちしております。

いに敏感な若者の実態が反映されています。

加齢とともに、その割合が徐々に減ってきていき、男女比をみると女性は六七%が「よく笑っている」と答えているのに比して、男性は五六%という低水準にとどまり、少くない男女差が生じています。

これは落語家ならば、だれもが実感していることでしょう。特に地方に行けば行くほど、おばちゃんの方がよく笑うんですね、見事なほどに。

そのうえで、「笑うことは病気を治したり、症状を和らげたりすることに効果があると思いますか」との問いへの回答

では、「効果がある」と考えている方が九二%もいらつしました。

たしかにその効果はハッキリとあるようで、その証拠に日本の男女の平均寿命を較べると、女性の方が七歳も長生きしますし、長寿番付上位十人をみると、すべて女性が占めています。

つまり、「泣く子は育つ」と言いますが、「笑う人は長生き」という現実があるようです。

われわれ落語家にとつては特に気になるのが、笑いにおける落語の位置です。

どんなジャンルの笑いが一番好きですか、との問いでは、設問で漫才、落語、コント、漫画やアニメ、映画や芝居の五項目を留意して質問をしていました。

トップは「漫才」で、以下「映画や芝居」、「コント」、「落語」、「漫画やアニメ」という順に好き、という結果が出ました。

仔細に見ると、六〇代以上の高齢者では、落語は漫才に次ぐ人気があるものの、若者の支持が弱く、漫才と落語を東西で較べると、東京では二一%で両者が並ぶものの、大阪では「漫才」四二%対「落語」七%で、漫才が圧勝という調査結果

が出ました。この結果は予測出来たものの、結構厳しい現実と対面させられます。

ただ、ぼくはさほど悲観していません。なぜならば、「落語」はTVにまるで向いていない芸能、だからです。

TVは画面を視聴者に見せて、そこから何かを想像させることへの努力を放棄している放送媒体なのです。このように、優れて即物的な映像媒体という特徴を、TVはその性格としています。

つまり、観客に何かを想像させる努力をまるで受けつけないのがTVなのです。から、観客の想像力によつて成立する落語がTV番組から放逐されるのも、無理からぬことです。

また、TVのお笑い番組を「よく見る」と「時々見る」を合わせると、八割を越すのですから、TVがこれだけ跋扈するなかで、落語の支持が低いのも、ある意味で、当然のことと思われまふ。

TVという土俵では、落語は到底勝ち目はありませんが、その代わり、寄席にお客様を引き入れれば、満更勝ち目がなわけではないと、落語家は密かに自らを恃むところがあるのです。

## 『ワークシヨップとメールマガジン』

マーケティングにおいて、プッシュとプルという二つの戦略があることはご存じでしょう。プッシュとは文字通り、「押す」ことです。が、戦略としては、企業が製品を消費者に「押す」ことを意味します。

たとえばらん丈を例に取れば、HPを作成し、そこに情報を載せ、不特定の方がHPにアクセスすることはすなわち、プルです。毎月まちだ中央公民館にて開く「らん丈ワークシヨップ」もプル戦略です。HPを作成して、つくづくよかったと思うのは、HPを介して最近、講演の依頼が増えたことです。

ごらんただければ分かりますが、らん丈のそれは、まったく落語家らしくないせいか、随分変わった落語家が世の中にはいるものだと、物珍しさが勝つのでしょう。ひとつ、講演を聞いてやろうと、らん丈の講演会を企画してくださる方が増えているのです。

時間的に許せば、日本全国どこにでも格安にて伺います。どうぞ、講演会の開催をご検討いただきますように、この場を借りてお願い申し上げます。

プルとは逆に、らん丈から積極的に読者にプッシュする戦略として、メールマガジンの発行があります。これはほぼ毎月一回、ご登録いただいたアドレスに、らん丈から情報をお送りするからです。

未登録の方は、是非これを機会にご登録ください。是非これをお願いたします。もちろん一切無料です。

登録の【URL】は<http://www.ranjo.jp/mag2/index.htm>、簡便なのはらん丈のHP左側に、登録のコーナーがあるので、そこをクリックしてください。らん丈のHP【URL】は、当会報巻頭題字下にある通りです。

百聞は一見に如かず、といます。先ずは、メールマガジンのバックナンバーをごらん下さい。

**「どうしまショウ」**  
**「ゆるりと町田密席」**  
 二月十三日(日)午後二時開演  
 町田市民ホール(階第四会議室)にて販売:千円

二〇〇五年は、らん丈が生まれ育った町田での活動を活性化させたいという、我がままを叶えさせていたために、らん丈後援会会員のうち、町田から遠方にお住いの方は誠に恐れ入りますが、今年はらん丈ひとり会「どうしまショウ」年三回公演のうち二回を町田市民ホールにて開かせていただきますので、先ずはお詫びを申し上げますとともに、ご理解とご協力を切にお願い申し上げます。

ただ町田から遠方の方にとってはご来場の負担が増えってしまうので、全会員の皆様に毎年二枚差し上げている、らん丈ひとり会のチケットを特例措置として、三枚送らせていただきます。

今回の落語会は、ゲストにプロ・ナチュラリストの佐々木洋さんをお迎えしました。

プロ・ナチュラリスとは耳慣れないことばかりと思いますが、日本語に直せば、自然解説活動を職業とする方、ということにでもなるのでしょうか。

皆さんに分かりやすい活動としては、TB Sラジオの「全国子ども電話相談室」での自然担当のレギュラー回答者があります。

佐々木さんは町田市に在住しており、また落語と俳句が大好きという、まさにゲストに打ってつけの方なので、今回お招きいたしました。

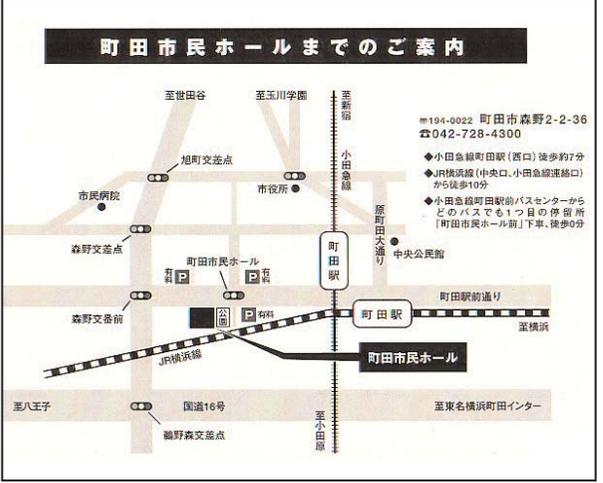
なお落語会終演後、同会場において「らん丈の勉強会=Workshop」を開きます。

これは落語家というより、一市民としてのらん丈が、参加してくださる皆様と、ともに考えながら、どうしたら内村鑑三のいう「われわれが死ぬときには、生まれたときより世の中を少しなりともよくして往こうではないか」(『後世への最大遺物』岩波文庫)を實踐できるのかを、考えるための勉強会です。

といっても決して肩肘張った会ではなく、また、らん丈の基底にはリベラリズムが脈打っているのです、参加者の美しい御意見には耳をそばだてて聞きいります。

もちろん参加費は原則として無料ですが、資料代として実費(百円程度)を申し受けることがありますので、その際は、よろしくお願いたします。

おひとりでも多くの方のご参加を、お待ちしております。



今年の「どうしまショウ」日程: 6月27日(月)新宿永谷ホール、12月2日(金)町田市民ホール

**「三遊亭らん丈」後援会入会要項**

入会金(会員証作製費+郵送料)として入会者全員から二千円申し受けます。

年会費は四千円ですが、池袋演芸場で行う『どうしまショウ』の入場券(二千円相当)を年間で二枚(四千円相当)差し上げます。

- ◎入会金二千円+年会費三年分一万二千元↓一万八〇〇円、合計九、八〇〇円
- 年会費を三年分前納して下さった方には、10%割引させていただきます。
- ◎入会金二千円+年会費二年分八千元↓七、六〇〇円、合計九、六〇〇円
- 年会費を二年分前納して下さった方には、5%割引させていただきます。
- ◎入会金二千円+年会費一年分四千元、合計六、〇〇〇円

会員証と後援会会報のみ御送ります。

※振込先口座※  
 郵便振替口座00100011730458  
 加入者名・三遊亭らん丈後援会

- 《東京三菱銀行・町田支店》
- 普通預金・2085250 三遊亭らん丈
- 《みずほ銀行・町田支店》
- 普通預金・8046459 三遊亭らん丈
- 《三井住友銀行・町田支店》
- 貯蓄預金・7264788 三遊亭らん丈
- 《UFJ銀行・町田支店》
- 貯蓄預金・1096152 三遊亭らん丈
- 《りそな銀行・町田支店》
- 普通預金・1093822 三遊亭らん丈

《イーバンク銀行》<http://www.ebank.co.jp/>  
 支店番号209・口座番号1393592